



講師の互井氏の胸にクロスジギンヤンマがブローチに！



クロスジギンヤンマ (会の最後に田中直義氏が捕えました)



クロスジギンヤンマの美しい眼



アオモンイトトンボ (♂型♀とのこと)



イトトンボの幼虫 (ヤゴ)



イトトンボの羽化殻



羽化直後のイトトンボ



アオモンイトトンボ♂



アオモンイトトンボの頭部



コシアキトンボのヤゴ



コシアキトンボのヤゴの腹面



コシアキトンボの羽化殻



アオモンイトトンボ (左♂、右♀)



オオシオカラトンボの♀

2015.5.17
トンボ観察会
講師:互井賢二氏
(房総蜻蛉研究所)
写真撮影編集:名取
校閲:互井賢二氏



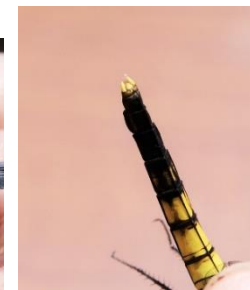
シオカラトンボ (♂)



シオカラトンボ



シオカラトンボ (↓に♂の副性器がある) (♀) の腹部先端



オオシオカラトンボ



講師の互井先生



ウチワヤンマのヤゴの羽化殻



シオカラトンボのヤゴ (毛深い感じ)



捕獲されたシオカラトンボのヤゴ (共食いの恐れから大きさ別に容器をかえてあります。)



クロスジギンヤンマのヤゴの羽化殻 (宮城会員の寄贈による)



ショウジョウトンボのヤゴ (お太鼓腹で眼がとびでている)

捕獲されたヤゴはシオカラトンボのヤゴ11 (小2、中5、大4)、ショウジョウトンボのヤゴ19 (小1、中11、大7) イトトンボのヤゴ27 (小2、その他25) トンボのヤゴは13、4回脱皮をするそうです。おどろきますね。



ショウジョウトンボのヤゴ



ほとんどアジアイトトンボのヤゴ



アジアイトトンボのヤゴ



アジアイトトンボのヤゴが多く生息していた植生が多い水鉢



松岡会長が仕掛けたペットボトル仕掛けにかかったモツゴ (左) とスジエビ (右)



水鉢のイトトンボのヤゴをアクリル網で捕えようと懸命の会員

2017.4.16
トンボのヤゴ調査
講師:互井賢二氏
(房総蜻蛉研究所)
写真撮影編集:名取
校閲:互井賢二氏



講師の先生のお話を聞く参加者（松岡会長撮影）



互井先生のトンボ捕獲方法のレクチャー
（谷口会員撮影）



いざ！トンボ捕獲チッコ隊
（谷口会員撮影）

トンボ観察数

- ムスジイトトンボ♂3
- クロイトトンボ♂2
- アジアイトトンボ♀1
- ウチワヤンマ♂1
- クロスジギンヤンマ♂3
- オオヤマトンボ♂1、♀1
- ショウジョウトンボ♂4、♀2
- シオカラトンボ♂5
- コシアキトンボ♂8、♀5

合計♂27、♀9、合計36個体確認



捕獲したクロスジギンヤンマ（右）は
図鑑の絵と全く同じだ！（谷口会員撮影）



どれどれ！少年たち、お母さん
も興味津々（谷口会員撮影）

この日小学4年のK君
がクロスジギンヤン
マを捕獲しました。
おめでとう！



これがトンボの翅の持ち方です
（谷口会員撮影）



アジアイトトンボの羽化体
（互井先生の撮影）

2017.5.28

トンボ観察会

講師:互井賢二氏
（房総蜻蛉研究所）
写真撮影編集:名取
校閲:互井賢二氏

はじめに松岡会長のご挨拶がありました。

2018.4.1の捕獲数	
クロスジギンヤンマ	2 (♂1♀1)
アジアイトトンボ	8
シオカラトンボ	5
ショウジョウトンボ	12



互井先生のご説明



ヤゴ獲り、池の底の泥をすくって試しています



ショウジョウトンボのヤゴ
(お太鼓腹で、目がとびでている)



宮城会員が見つけたクロスジギンヤンマのヤゴ 5cm位ありました



ヤゴがなかなか見つかりません



拡大鏡でのぞいて



シオカラトンボのヤゴ
(少々毛深い)



クロスジギンヤンマ腹面に産卵管
(赤い点)ありで、メスと判明



アジアイトトンボのヤゴ

2018.4.1
トンボのヤゴ調査 - I
講師:互井賢二氏
(房総蜻蛉研究所)
写真撮影編集:名取
校閲:互井賢二氏



捕えられたヤゴたち

はじめ、トンボのヤゴがなかなかとれなかったのですが、今度はイトトンボのヤゴを金属のアク取り網を使って水草の生えている水鉢のなかで試んでいます。



ヤゴとり、大活躍で先生からご褒美のものをいただきました



ちびっ子たちはミシシッピーアカミミガメを恐るおそる触っています



↑ アメリカザリガニ捕獲用の網にかかったウシガエルを見て、わーデッカイ!



↑ ウシガエル（食用ガエル）



八角網にかかったヌマエビ



↑ 会長がしかけた八角網 カサみたい

小動物の観察も！

ヤゴ調査の後、松岡会長の仕掛けた八角網にかかった魚類と 酒井会員の仕掛けた網にかかったウシガエルも観察しました。



八角網にかかったのは主にモツゴ（クチボソ）と 下の方にはスジエビがいっぱい



八角網にかかった子持ちのスジエビ

2018.4.1
 トンボのヤゴ調査 - II
 講師: 互井賢二氏
 (房総蜻蛉研究所)
 写真撮影編集: 名取
 校閲: 互井賢二氏



観察会はじめる、先生からの捕獲タイムのご説明



ちびっこ紅一点?のYちゃん、頑張っって!
珍しいトンボつかまえてね



恐るおそる栈橋の木を渡っています



親子仲良く



お父さんも一生懸命



やっぱりとれないや



奥の小さな池には珍しいトンボがいるかな



ほぼ1時間の捕獲時間の後に皆が
採取したトンボを互井先生が紹介
しています。

2018.8.5
トンボ観察会 - I
講師:互井賢二氏
(房総蜻蛉研究所)
写真撮影編集:名取
校閲:互井賢二氏



ギンヤンマ ♀



オオシオカラトンボ ♀



オオシオカラトンボ ♂



ギンヤンマ ♀



ウチワヤンマ ♀
(尾部にあるウチワの働きはわからないそうです)



これも ウチワヤンマ ♀

先生はいろいろなセミの抜け殻も
沢山みせてくださいました。



ナツアカネ ♀



シオカラトンボ ♀



クマゼミ



右：クマゼミの
羽化殻（腹部に
丸い突起がある
のが特徴）

この日観察されたのはアジアイトトンボ、オオヤマトンボ、ウチワヤンマ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、オオシオカラ、コシアキトンボ、ショウジョウトンボ、ウスバキトンボ、ナツアカネ

2018.8.5
トンボ観察会 - II
講師:互井賢二氏
(房総蜻蛉研究所)
写真撮影編集:名取
校閲:互井賢二氏



互井先生によるヤゴ獲りのご説明



新しく設置された水槽ではない、水草の多い古い水鉢に集中してヤゴ獲りです



ヤゴってどんなものかしら？楽しみ！



ちびっこたちは互井先生に何か質問しているのでしょうか



互井先生が皆の獲ったヤゴをバットに移していらっしゃいます。

2019.4.21
トンボのヤゴ調査- I
講師:互井賢二氏
(房総蜻蛉研究所)
写真撮影編集:名取
校閲:互井賢二氏



ヤゴがとれたはずなんだけど？



当日捕獲されたショウジョウトンボのヤゴ
(共食いされないように大きさ別にされています)



当日捕獲されたシオカラトンボのヤゴ



ギンヤンマのヤゴ 今回のハイライト！



アジイトンボのヤゴ



ショウジョウトンボのヤゴ
(お太鼓腹で、眼がとびでている)



シオカラトンボのヤゴ
(全体に毛深い)

捕獲されたヤゴ数

イトトンボ (ほとんどアジイトンボ)
大8、中7、小58、計73
ギンヤンマ 中1
ショウジョウトンボ 大22、中大20、
中12、小10 計64
シオカラトンボ 大4、中8、小8、計20

2019.4.21
トンボのヤゴ調査-Ⅱ
講師:互井賢二氏
(房総蜻蛉研究所)
写真撮影編集:名取
校閲:互井賢二氏



クモ専門の加藤先生も子供たちと一緒に頑張っています。



オニヤンマ成虫♂・♀と羽化殻



ギンヤンマ♂・♀と羽化殻と脱皮殻



上: ナゴヤサナエ成虫と羽化殻
中: コシアキトンボ♀・♂ 下: 左チョウトンボ♂、右ショウジョウトンボ♂



オニヤンマ成虫♂と羽化殻



ウチワヤンマ成虫と羽化殻



左: コオニヤンマ成虫と羽化殻
右: オオヤマトンボ成虫と羽化殻



ヤブヤンマ♂・♀、マルタンヤンマ♂・♀

この日、先生は沢山の貴重な標本をもってきてくださいました。全部とても撮りきれませんでした、それに露出オーバーで残念な写真になってしまい、すみませんでした。

2019.4.21
トンボのヤゴ調査-Ⅲ
講師: 互井賢二氏
(房総蜻蛉研究所)
写真撮影編集: 名取
校閲: 互井賢二氏



互井先生によるトンボ捕獲のご注意



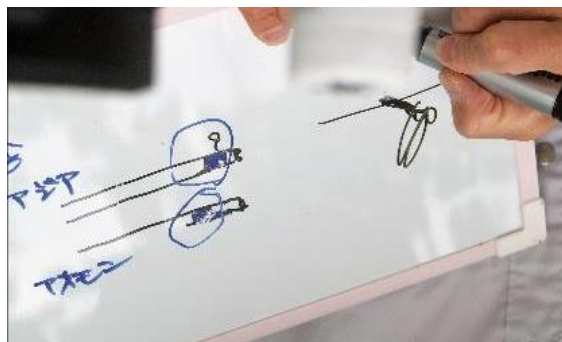
捕中網を振ってトンボを追いかけています



先生が用意されたレクチャー用の
いろいろな道具



皆が分かるようにと図を描いてくださっています



アジアイトトンボとアオモ(ニイトンボ)の
腹部先端の青い部分(○印)の違い



アジアイトトンボのみ、多分ちびっこた
ちの一人が捕まえたものでしょう



アジアイトトンボのみ、ヨシの茎
に止まっていた。



アジアイトトンボの未熟♀
(水鉢の一つで撮ったもの)

2019.5.19
トンボ観察会- I
トンボ捕獲とアジアイトトンボ
講師:互井賢二氏
(房総蜻蛉研究所)
写真撮影編集:名取
校閲:互井賢二氏



左シオヤトンボのみ尾先端のみ黒い、
右シオカラトンボ。尾端は白み



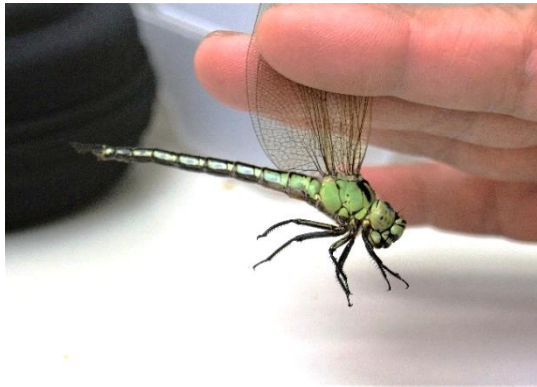
シオヤトンボの♀、参考までに
見てもらう



シオカラトンボのみ。
♀は尾端に水を溜めて卵を飛ばす**飛水
産卵**〈打水産卵〉という方法を使う



ショウジョウトンボのみ
全身赤いが、♀は黄褐色・麦藁色



アオヤンマ、なんと美しいこと！
密集したヨシ原に生息する。



アオヤンマの顔、複眼にブルーの
特徴的な模様が入る



オオヤマトンボみ、王者の雰囲気



顔に二本の黄色の縞が
みられる



クロスジギンヤンマみ、樹陰のある
少し暗い小さめの池に繁殖、対して
ギンヤンマは広い明るい大きな池に
繁殖



クロスジギンヤンマ♀、水鉢の浮
葉植物アサザの葉の上で産卵して
いるようでした。この種はヨシな
どの茎に産卵管で孔をあけて上か
ら下へと何個も産卵する



皆、互井先生のお話に引き込まれています

2019.5.19
トンボ観察会-Ⅱ
本日の成果
講師:互井賢二氏
(房総蜻蛉研究所)
写真撮影編集:名取
校閲:互井賢二氏



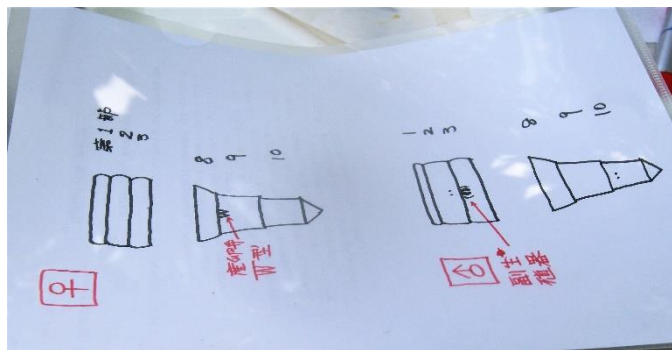
見事な先生作のキイロサナエの羽化殻標本



アジイトトンボの羽化殻3体



ギンヤンマのヤゴ（先生が大事に育てていらっしゃるので、先生の指で反応して動く。乾燥アカムシをたべている）（ヤゴの飼育法のレクチャー）



ヤゴの産卵弁や副性器等の図解



ギンヤンマの羽化殻、赤い矢印はメスの産卵管をさしている



ムカシトンボ（先生が今年5月に捕獲されたもの）**生きた化石**といわれる。この種は**ヤゴで7年**暮らす。



ニホンカワトンボ(淡橙色型) 標本



アオハダトンボ（今年先生が大分県で捕獲されたもの、関東では希少種）

その他ヤゴの羽化殻をきれいにして標本にする方法も伝授くださいました。

2019.5.19

トンボ観察会-Ⅲ

ヤゴの飼育法と羽化殻標本の作り方など

講師:互井賢二氏
(房総蜻蛉研究所)
写真撮影編集:名取
校閲:互井賢二氏

アキアカネを求めて

アキアカネ
アキアカネは氷河期の生き残り。夏には未熟な状態で涼しい山地に移動し秋に平地においてくるが、ビルの6階くらいの高さで飛翔し平地ではあまりみつけれない。寿命は6月に羽化して12月ころに命を閉じる。最近は大変数が減少してきているのは海外の多くの国が使用禁止のネオニコチノイド系の農薬を農協が推奨しており、基準値も緩められたからではないかということでした。



ちびっこたちは前に座って網をもって注意を受けています。



皆今日はアキアカネやギンヤンマを目指しています。

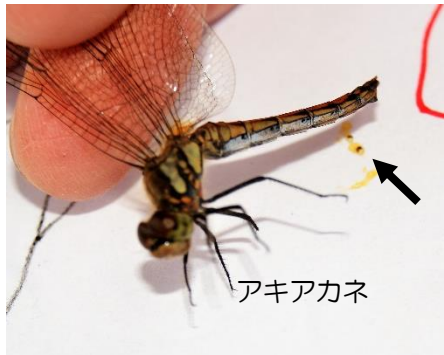


曇っていてなかなか成果はあがりません、場所を少しかえてみました。

参加の少年H君が大活躍でした。このH君が右の写真のアキアカネをようやく捕獲しました。

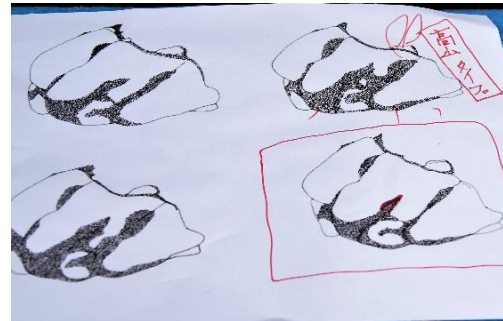


アキアカネの♀お腹が白い曇っている時にH君に捕獲されました。



アキアカネ

一旦終了の後H君がまた捕まえました。♀で、先生が尾を水につけると卵を2個産みました(→)。



アキアカネの胸の模様のパターン：捕獲されたものは右上の高山タイプとのことでした。



アキアカネ、終了後に田中さんが水鉢の中に落ちていたところを見つけました。

2019.10.20
秋のトンボ観察会-I
講師:互井賢二氏
(房総蜻蛉研究所)
写真撮影編集:名取
校閲:互井賢二氏

アカトンボの仲間
右写真3点は先生の
標本です。



ナニワトンボみ
青っぽい 赤くならないアカトンボの仲間



キトンボみ
栃木県で採集



ノシメ トンボみ
栃木県で採集

ギンヤンマのヤゴへの
餌やりレクチャー

先生は曇りの合間にヤゴの餌やりを
皆に体験してもらうため、人数分若
齢ヤゴが一匹ずつ入ったタッパーを
用意して下さっていました。ち
びっこは皆ピンセットでアカムシや
イトミミズをやりました。



ギンヤンマの亜終齢ヤゴ



ギンヤンマの中齢ヤゴ（アカムシを
食べているところ）（からだの縞模
様がみられます）



ギンヤンマの中齢ヤゴ、水草を除去し
てアカムシを食べているのを見やすく
したところ



左の写真:
中齢ヤゴが脱皮
した殻



ギンヤンマの若齢ヤゴはからだの白黒
の縞模様が特徴です。



ヤゴのえさやり 保護者の方々も覗き込んで
おられます。

2019.10.20
秋のトンボ観察会-Ⅱ
講師:互井賢二氏
(房総蜻蛉研究所)
写真撮影編集:名取
校閲:互井賢二氏